



2019年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年2月13日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9941 URL http://www.taiyo-bussan.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 滋
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部ジェネラル マネージャー (氏名) 宮内 敏雄 TEL 03-5333-8080
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第1四半期の業績 (2018年10月1日～2018年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第1四半期	4,090	△23.7	△71	△270.4	△94	△542.6	△95	△626.0
2018年9月期第1四半期	5,363	5.1	42	△37.3	21	△69.1	18	△72.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第1四半期	△72.11	—
2018年9月期第1四半期	13.70	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年9月期第1四半期	10,518	169	1.6	127.79
2018年9月期	11,742	288	2.4	217.70

(参考) 自己資本 2019年9月期第1四半期 169百万円 2018年9月期 288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年9月期	—	—	—	—	—
2019年9月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2019年9月期の業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000	9.6	130	36.1	50	205.1	40	304.9	30.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期 (累計) の業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期1 Q	1,328,219 株	2018年9月期	1,328,219 株
② 期末自己株式数	2019年9月期1 Q	753 株	2018年9月期	753 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期1 Q	1,327,466 株	2018年9月期1 Q	1,327,575 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

（日付の表示方法変更）

「2019年9月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第1四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(追加情報)	5
(セグメント情報等)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国の経済は、景況感は概ね高水準で推移したものの経済の成長率は伸び悩み、米中通商摩擦の激化などから、海外経済の不確実性が高まる中、景気の下方リスクも憂慮され、第1四半期累計期間末を迎えました。

このような環境の下、当社の主要商材である牛肉につきましては、輸入価格の高値が続いたため外食産業向けの販売が伸び悩み、畜肉調製品の販売も低調に推移したことから、売上高は減少しました。鶏肉につきましては、ブラジルからの輸入量が増加し、国内相場が不安定になる見通しから仕入数量を抑えた結果、取扱数量・売上高ともに減少しました。

加工食品につきましては、タイ産を中心に外食産業向けは堅調に推移し、売上高を増加させることができましたが、主要商材である牛肉・鶏肉の売上の低迷が影響し、当第1四半期累計期間における売上高は40億90百万円(前年同四半期累計期間比 23.7%減)、営業損失71百万円(前年同四半期累計期間は 営業利益42百万円)、経常損失94百万円(前年同四半期累計期間は 経常利益21百万円)、四半期純損失95百万円(前年同四半期累計期間は 四半期純利益18百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(食料部)

牛肉につきましては、輸入価格の高値が続いたため外食産業向けの販売が伸び悩み、畜肉調製品の販売が低調に推移したことから、売上高は減少しました。鶏肉につきましては、ブラジルからの輸入量が増加し、国内相場が不安定になる見通しから仕入数量を抑えた結果、取扱数量・売上高ともに減少しました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、21億2百万円(前年同四半期累計期間比 29.7%減)となりました。

(総合食品部)

畜肉等の加工食品につきましては、タイ産加工食品の外食産業向けは堅調に推移し、売上高を増加させることができました。中国産加工食品につきましては、コンビニ向けの取引が低迷し、売上高は伸び悩んだものの、昨年以上の収益を確保することができました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、8億68百万円(前年同四半期累計期間比 2.9%減)となりました。

(営業開拓部)

中国向け車輛部品・エンジンにつきましては、日本製としての信頼は厚く根強い需要があるものの、取扱数量・売上高とも減少しました。農産品につきましては、中国産大豆は比較的順調に販売できたものの、中国産の玄蕎麦が豊作だったため価格が下落し、競争が厳しくなったことから取扱数量・売上高とも減少しました。化学品につきましては、販路も安定して仕入メーカーとの連携も良好になってきましたが、韓国産スマートフォン向け原料の販売が減少したため売上高は減少しました。新規商品の取り扱いとしては化粧品や菓子類の中国向け輸出が順調に進みました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、6億33百万円(前年同四半期累計期間比 36.5%減)となりました。

(生活産業部)

スペイン産豚肉の輸入につきましては、順調に拡大してきましたが、現地工場の商品品質の改善が進まないことから仕入先工場と商流を変更し、別の工場と輸出業者からの輸入へ切り替えた結果、11月と12月は、一時的に取引が減少したことで、取扱数量・売上高ともに伸び悩みました。

この結果、当第1四半期累計期間での売上高は、4億85百万円(前年同四半期累計期間比 2.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期累計期間末の資産につきましては、現金及び預金の増加があったものの、売掛債権及び商品の減少等に伴い、前事業年度末に比べ12億23百万円減少し、105億18百万円となりました。

負債につきましては、支払債務及び借入金の減少等により前事業年度末に比べ11億3百万円減少し、103億49百万円となりました。

純資産につきましては、当四半期純損失の計上及び為替予約の時価評価益の減少等により前事業年度末に比べ1億19百万円減少し1億69百万円となりました。自己資本比率は1.6%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2018年11月13日公表の「2018年9月期 決算短信[日本基準](非連結)」で公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,183,573	3,722,888
受取手形及び売掛金	4,037,323	2,710,818
商品及び製品	3,708,295	3,312,151
その他	153,504	123,584
貸倒引当金	△2,843	△1,652
流動資産合計	11,079,852	9,867,791
固定資産		
有形固定資産	284,525	282,209
無形固定資産	23,361	22,319
投資その他の資産		
その他	354,278	346,383
投資その他の資産合計	354,278	346,383
固定資産合計	662,166	650,912
資産合計	11,742,019	10,518,703
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,457,196	1,547,463
短期借入金	8,241,542	8,122,355
未払費用	432,116	341,280
その他	112,059	152,247
流動負債合計	11,242,914	10,163,347
固定負債		
退職給付引当金	154,642	135,440
その他	55,465	50,269
固定負債合計	210,108	185,709
負債合計	11,453,022	10,349,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,344,975	1,344,975
資本剰余金	1,306,916	1,306,916
利益剰余金	△2,373,780	△2,469,505
自己株式	△969	△969
株主資本合計	277,142	181,417
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	11,854	△11,770
評価・換算差額等合計	11,854	△11,770
純資産合計	288,996	169,646
負債純資産合計	11,742,019	10,518,703

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
売上高	5,363,435	4,090,639
売上原価	5,159,927	4,005,872
売上総利益	203,508	84,767
販売費及び一般管理費	161,347	156,629
営業利益又は営業損失(△)	42,160	△71,862
営業外収益		
為替差益	7	—
受取賃貸料	2,844	2,818
その他	923	2,226
営業外収益合計	3,775	5,044
営業外費用		
支払利息	21,644	20,464
その他	2,961	7,136
営業外費用合計	24,605	27,600
経常利益又は経常損失(△)	21,330	△94,418
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	21,330	△94,418
法人税、住民税及び事業税	3,696	1,281
法人税等調整額	△563	24
法人税等合計	3,132	1,306
四半期純利益又は四半期純損失(△)	18,198	△95,724

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自2017年10月1日 至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	総合食品部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	2,993,738	895,150	998,754	475,792	—	5,363,435
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,993,738	895,150	998,754	475,792	—	5,363,435
セグメント利益又は 損失(△)	35,450	47,611	22,701	△5,899	△57,703	42,160

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△57,703千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自2018年10月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	総合食品部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	2,102,333	868,399	633,948	485,958	—	4,090,639
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,102,333	868,399	633,948	485,958	—	4,090,639
セグメント利益又は 損失(△)	△43,376	38,618	△4,299	△9,715	△53,088	△71,862

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△53,088千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来当社の報告セグメントは「食料1部」「食料2部」「総合食品部」「営業開拓部」「生活産業部」の5区分としておりましたが、当第1四半期累計期間より「食料部」「総合食品部」「営業開拓部」「生活産業部」の4区分に変更することといたしました。これは、会社組織の変更に伴い、2018年10月1日付けでセグメントを変更したことによります。

各セグメントの事業に係る主な取扱商品は、以下の通りであります。

- (1) 食料部 牛肉・鶏肉
- (2) 総合食品部 加工食品
- (3) 営業開拓部 車輛部品・農産品・化学品
- (4) 生活産業部 豚肉

なお、前第1四半期累計期間の報告セグメント情報は変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。